

教育

◆市民総参加！地域での見守りと論語暗唱！

みなさん、お気づきでしょうか。帰宅放送のアナウンスは、先月から市内の9年生が務めています。各町から希望者を募り録音を行いました。各町の子どもの声とともに地域での見守りと論語暗唱を市民総参加で取り組みたいと考えています。ご支援・ご協力をお願いします。

多久市の論語教育では、9月下旬から全国版論語検定試験を実施(3・5年生)、10月からは校内論語カルタ大会を開催し、11月23日(木)の市論語カルタ大会に臨みます。学校では、論語検定試験に向けての学習支援員ボランティア募集も行っていきます。くわしくは各学校へお問い合わせください。

各月のアナウンサーを紹介し
ます。

8月	天野 美々(北多久町)
9月	佐藤 瑞星(東多久町)
10月	田中 想(多久町)
11月	岸川 陵斗(北多久町)
12月	大坪 美咲(南多久町)
1月	峯 朋果(東多久町)
2月	坂本 龍生(西多久町)
3月	江里口 くるみ(南多久町)



▲東原彦倉西溪校での録音の様子

問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-2227

今月の論語

とも
朋有り遠方より来たる
また
亦楽しからずや

友達がひょっこり遠くから訪ねてきた。こんなに楽しいことはない。

今月の帰宅放送は、東原彦倉東部校 9年 佐藤瑞星さん(東多久町)です

教育長コラム

ちよっといい話



「命の重み」

始業式直前、保護者からの電話に驚き、救急車を要請することを指示して駆けつけた。そこには、睡眠薬を大量に服用し、もうろうとうとしている子と母と祖父母。救急車を要請していない事実を知り、「この子の命より重い世間体があるのですか。この子を救いましょう」と説得してから要請。ただし、自宅前ではサイレンを消して欲しいと付け加えて、どうにか間に合った。この子の苦しみは察しがつく。

9月1日は年間で最も若年者が自殺する日。周囲の大人のまなざしで、小さな変化に気づいてあげたいものだ。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆童らの歌に寄りくる螢あり
闇に光れば歓喜の声よ

◆自衛隊のヘリの救助に息をのむ
テレビに釘づけ頭の下がる
本村 則子
梶原恵美子

◆久の雨早苗をゆらし降り続く
今年豊作願いつつ見る
福島那智子

◆ボーナスで買ったギターを握りしめ
抑えきれない思いを弾く
野崎 隆幸

◆静心 失せて文明進む日々
賢順祭に琴の音さやか
尾形 節子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

◆法要を終へし夜更の冷し酒
富樫 明美

◆捨て切れぬ昭和のドレス 土用干
おおやはな

◆里山の背一面の大夕焼
田中あつ子

◆熊蟬の声を限りの自己主張
倉成 皓二

◆雷落ちて 胸に火花の 立つことし
大石ひろ女

俳句 《互選》

◆金星を取って力士は昇り坂
西山 残月

◆絵手紙のお地藏さんも笑ってた
井上 東子

◆青春へプレイバックの水着買う
大谷 和

◆カタログであこがれの地を一人旅
秋永 保子

◆忘却を武器にも使う エライ人
松下 修

川柳 《多久市川柳会 互選》

◆忘却を武器にも使う エライ人
松下 修